

活動名	団体名	学生ボランティア団体 OPERATION つながり震災復興ボランティア事業部
	地域	広島県東広島市
つながれ！あなたも私も「復興者」！	代表者	震災復興ボランティア事業部長 富吉 亘哉
	支援金額	35万円
活動概要		
<p>2013年度当団体は、以下の3つの活動目的のもと活動を展開した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.震災復興支援ボランティアの企画・運営・参加を通じて、学生に気付きと学びをもたらすこと</li> <li>2.被災地域の学生・住民の間に交流を生み出し、包括的な地域活性を目指すこと(地域連帯)</li> <li>3.東北、また広島での震災復興支援を通じて被災地の人々の心の健康を支えること</li> </ol> <p>◆実施時期  2013年4月1日～2014年3月31日  つながり隊第7次派遣 2013年9月2日～13日  つながり隊第8次派遣 2014年3月9日～20日  亘理プロジェクト第1次派遣 2013年7月13日～17日  亘理プロジェクト第2次派遣 2013年8月19日～24日  亘理プロジェクト第3次派遣 2013年11月1日～5日  亘理プロジェクト第4次派遣 2014年1月11日～13日  亘理プロジェクト第5次派遣 2014年3月14日～16日  復興カフェ 2013年4月～2014年1月  サマーステイ 2013年8月7日～11日</p> <p>◆参加人数  広島大学生 延べ60名  亘理高校生 延べ30名  福島の小中学生 延べ15名  東日本大震災被災地域の住民 延べ100名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:205名</p>		



宮城県名取市閑上地区にて遺留品搜索  
(つながり隊第7次派遣)



宮城県亘理町旧館仮設住宅にて地元高校生と一緒に足湯マッサージ(亘理プロジェクト第3次派遣)



宮城県亘理町旧館仮設住宅にて正月イベント  
交流後の集合写真(亘理プロジェクト第4次派遣)



12月復興カフェ「3.11のあとの日常」ワークショップ  
広島大学東広島キャンパス内

#### ◆実施に伴う効果

つながり隊では、現地のニッペリア仮設住宅で継続的な支援活動を展開したことにより、住民との親密な関係を築くことができ、当団体のメンバーへの住民の信頼がより一層深いものになった。また、つながり隊の派遣を終え、当団体のメンバーが広島へ帰った後でも、住民と個人的に手紙交換をするなど、支援する側、される側の関係ではなく、人として一対一の深い関係をつくることができた。また、現地の農業や漁業の支援などでは、人手を必要としているというニーズを満たすことができ、農業や漁業を行っている人々に感謝された。

亘理プロジェクトでは、地元・亘理町の高校生と共に活動を行い、高校生が主体的に仮設住宅の支援活動を行うことができるような環境づくりを行うことで、高校生の仮設住宅支援活動に対する意識を高め、より活発に高校生が仮設住宅への支援活動を行うことができるようになってきた。

復興カフェでは参加学生に対し、様々なワークショップを通して、東北への関心や理解を深める機会を提供することができ、実際に当団体のメンバーではない参加学生がつながり隊に参加するなど、広島大学生が震災復興支援に踏み出すことのできるようなきっかけをつくることができた。

サマーステイでは、レクリエーションで、広島と福島の子どもが協力してレクリエーションを行うなど、広島と福島の子どもの交流を深めることができた。

#### ◆苦労した点

2013年度の当団体の活動は、当団体のメンバーを東北へ派遣し、活動をする機会が多かったため、その派遣にかかる予算を確保するのに苦労した。最終的には、メンバー個人の負担額を増やすなどで対応したが、これから長く震災復興支援活動を現地で続けていくためには、メンバー個人の負担をなるべく少なくする必要があると感じている。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

今後のつながり隊については、活動の地域を絞り、特に現地の仮設住宅に対する支援活動を強化させていきたいと考えている。具体的には、つながり隊で長らく支援活動を行ってきた仙台市のニッペリア仮設住宅の支援活動を継続的に行っていくために、同じくニッペリアの支援活動を行っている他大学の学生や仮設住宅の周りの地域の人々と協力し、ニッペリア仮設住宅の支援ネットワークをつくっていききたいと考えている。

亘理プロジェクトでは、2014年度をもって、亘理高校生への活動の引き継ぎを達成し、それ以後は亘理高校生のみで仮設住宅の支援活動を行っていきけるように、亘理高校生が活動を主体的に行えるような環境づくりを行っていく。

復興カフェは参加学生に震災を風化させないため、また防災の大切さなどを広めるために今後も広島大学内での活動を継続させていく。

サマーステイについては、志和東地区の住民主体での活動となったため、今度、開催するかどうかについては不明である。なお、現時点で2014年度の開催予定はない。可能であれば、サマーステイのような活動を当団体が独自に企画し、福島の人々に対するアプローチも行っていければと考えている。

また、2013年度の活動を通して、東日本大震災で学んだ教訓を生かし、これから起こり得る災害に備えることの重要性を強く感じた。今後は、防災を広島で多くの人に広める活動にも重点を置いていきたいと考えている。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

当団体に対する長らくのご支援感謝いたします。本当にありがとうございます。おかげさまで、昨年度も当団体は自分たちが考える最大限の支援活動を展開することができました。当団体は2013年度の活動を通して、震災から3年以上が経過し、震災当時とは状況が大きく変わりつつある東日本大震災の被災地では今までとは違った形での支援活動が求められているということ強く感じました。また、これから起こり得る災害に対して、東日本大震災を通して私たちが学んだ教訓を生かすということの大切さもひしひしと感じました。当団体の活動に参加した学生は自分たちにできることは工夫次第で無限にあると実感しています。2013年度のご支援のおかげで、参加学生も継続した支援活動を実行でき、学びと成長をもって、プロジェクトを発展させていくことができました。これらの気づきをもとに、2014年度は被災地での活動、そして広島で防災を広める活動の二つを大きな軸として活動を継続、そして新たに展開していきたいと考えております。2013年度は大変お世話になりました。